

## 「歴史の空白」終戦時の海軍を長野で探る・・・（その3）

土屋光男（9組）

### これから取り組みたいこと

令和5年は大本営海軍部壕工事跡などのさらなる調査（第300設営隊の後続兵300人余りの宿泊先を突き止めたり、準備されつつあったという高射砲陣地の場所の探索など）の他、文化財指定の足掛りもつけなければなりません。

前回にも書きましたが、この取り組みは子供と大人が“ご一緒”しています。

そこで子供達にも発案してもらい、以下のような、安茂里小市の【大本営海軍部壕工事跡】Q & A を創ってみたいです。

幾つかの例題を紹介しますので、どうぞチャレンジを。

#### Q1 安茂里小市の海軍部壕の工事はいつ頃から始まりましたか？

次の3つより正しいものを選んでください。（以下同じ）

1944年11月中旬      1945年4月初旬      1945年6月下旬

#### Q2 工事を行ったのは海軍の何部隊ですか？

103部隊（5011施設隊）      第300設営隊      第3010設営隊

#### Q3 その部隊の隊長（技術大尉）さんは誰でしたか？

山本将雄さん      吉田栄一さん      井田正孝さん

#### Q4 その部隊はどこから来ましたか？

横須賀      舞鶴      呉

正答、及び解説はこのようになります。

Q1 正答（A）は 1945年6月下旬 です。

正確には1945年（昭和20年）6月27日に隊長以下が役場に来ていますので、昭和の安茂里を語り継ぐ会（以下安茂里の会）はこの日を工事の始まった日と考えています。なお1944年11月11日は松代の陸軍が行った大本営関連の工事が始まった日とされています。また1945年4月1日は米軍などが沖縄本島に上陸した日です。

Q2 正答（A）は 第300設営隊 です。

この部隊は200以上あった設営隊の中で“虎の子”部隊と呼ばれ約1000人（内500が長野へ）からなっていました。なお第3010設営隊もそう呼ばれていて、ある資料では9月には長野へ派遣される予定だったそうです。また103部隊（5011施設隊）は御代田町で海軍の地下工場を掘っていました。（市村到君の父実氏より聞き取り）

Q3 正答は（A） 山本将雄さん です。

なお吉田栄一建築技術大尉は陸軍の松代工事の現場責任者でした。また井田正孝陸軍中佐は大本営の移転先を長野県の松代地区に選んだ人です。

Q4 正答（A）は 横須賀 です。

その部隊は横須賀で大規模な飛行機の地下格納庫を造っていましたが、急遽安茂里に派遣されました。なお海軍には、上記三か所に加え佐世保に鎮守府があって、重要な根拠地となっていました。

今までお読みいただきありがとうございました。

上原君に感謝するとともに、同期諸兄のご活躍を祈念して筆を置きます。

小市の海軍部壕は原則第二、第四日曜午前が公開日ですが、同期の皆様には私の都合がつけばいつでもご案内します。

土屋携帯 090-5408-0900 へ、SMS かお電話ください。（但し資料館も込みで資料代 500 円）

参考資料：

- (1) 「知られざる戦禍の安茂里-昭和 20 年夏の安茂里を振り返る-」（昭和の安茂里を語り継ぐ会  
（以下語り継ぐ会、2021 年 4 月発行）
- (2) 「松代大本営は長野大本営と呼び変えた方が」（語り継ぐ会、21 年 6 月発行）
- (3) 「安茂里は海軍の最期の司令所などに」（語り継ぐ会、22 年 10 月発行）
- (4) 長野郷土史研究会誌「長野」第 321 号（2022 年 12 月発行）  
『今改めて提唱したい、「松代大本営」でなく「長野大本営」と呼ぶべきと、土屋光男』

【写真：地元の小学校の子供たちと、右の無帽ジャンパー姿が筆者】



2023 年 2 月 4 日

以上 3 回完